

Pitchari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第187号

ななえ古写真物語 VOL.187

大野かんぱい事業の始まり

北海道電力株式会社 七飯発電所

昭和40年代か

峠下地区



北海道電力株式会社が所有する七飯発電所において、灌漑放流設備の損傷によって、灌漑用水の放水停止を余儀なくされてしまい、農業用水として活用していた七飯町や北斗市などの農家に影響が生じたと、ニュースで報じられた。

影響のあった渡島平野は、北海道でも早い段階で稲作が行われたエリアで、記録によれば北斗市（旧大野町）文月地区では、1692年には造田が始まったという。七飯町においても安政年間（1855～1860年）に描かれた「峠下村絵図」（七飯町指定文化財）には、峠下や仁山地区に格子状の模様と「田」の字が記されていることから、この頃には水田が広がっていたことがわかっている。流石に江戸時代では、発電設備という概念もないので、用水の確保は久根別川をはじめとした河川を源としていたと想像される。

ところで、明治期になると大沼湖水を発電に利用する発電所の建設が函館水電株式会社によってなされたことを、ピチャリ第116号に記したので、併せて読んでいただければと思うが、昭和になって、これらの施設の老朽化をふまえ、かつ大沼湖水を渡島平野に流域変更しながら、農業用水を確保すること、100mあまりの落差を利用して10,000kwクラスの発電所を建設する計画が持ち上がった。それが「大野かんぱい事業」である。

この開発計画は、昭和25年に「大沼導水かんぱい事業」として陳情書が北海道土木部へ提出され、翌26年には「大野かんがい排水事業」として計画が採択、その後北海道電力と開発局との協議や、地域住民や農家、漁業関係者の説得など諸々の課題を解決するために時間を費やし、ようやく昭和36年に大野かんがい排水事務所を開設、工事に着手した。その後も順風満帆とはいえないが、昭和38年に導水トンネル工事に着手したり、各地区の浚渫や用水路整備工事などを経て、昭和40年に試験的ではあるが、ようやく大沼の水が発電所の試験通水として渡島平野へ流され、七飯発電所の運転を開始した。それ以降も、幹線用水路の整備工事を続け、昭和53年11月に開発局によって、国営大野地区かんぱい事業竣工式が挙行され、すべての大勢を整え正式に竣工した。

写真は、昭和40年に竣工し、発電を開始した七飯発電所背後の斜面を走る導管に水を通して、これまで以上の電力を得て、また、この発電所の運転開始をもって明治後半から大正期にかけて建設された3つの大沼水力発電所は役割を終え、廃止となった。

かような歴史をひも解くと、国、企業、地域住民が喧々諤々となりながらも築き上げた発電所が、今や多くの人々の生活を、あたりまえのように支えてきたことを痛感させられる。

7日 夜の博物館が始まりました。

第一回目の講座は、当館学芸員が『横津岳の植物調査から』と題し、町内の植物調査のきっかけとなった、令和二年に開催されたテーマ展の内容と、そのとき展示した大型標本を見てもらいながら、お話を進めました。横津岳に特化したのは、麓、中腹、山頂と場所により植生の多様が見られ、麓はラン科が、植生の変化が多い山頂付近は、種類が多いからです。また標本作製の際に気をつけていることや、調査の意義、変わりつつある横津岳の環境についてもお話ししました。



12日 南茅部高校の見学。

当館の団体見学は、小学校の見学が多いので、高校生はどんなふうに見学を見て、何に興味があるのだろう、と来られる前は考えていたのですが、土器や石器、縄文時代全般の解説を聞く生徒さんは真剣そのもの。引率で来られた方も熱心に聞き入っていました。実際に土器を持って、重さを体感したり、石器のつくりを観察したり、最後は土器を持ってスマホで記念撮影もありと、いつもとは異なる見学となりました。



24日 知内町郷土資料館へ

ジュニア探検クラブでは、予定していた駒ヶ岳登山が雨のため中止になり、知内町郷土資料館の見学と琥珀のペンダント作りを行いました。知内町の琥珀は、二万年前のお墓から見つかった日本で一番古い副葬品というお話や、今でもとれる知内川の砂金など、興味が尽きないお話を学芸員の竹田さんから聞いたあとは、琥珀を紙やすりで削り、磨く作業をしました。それぞれの琥珀が出来上がり、疲れをみせない子どもたちは帰りの車中も元気いっぱいでした。



1	火	テーマ展開催中 (~9/10)
2	水	夜の博物館
3	木	
4	金	
5	土	
6	日	
7	月	
8	火	
9	水	
10	木	
11	金	
12	土	
13	日	
14	月	
15	火	
16	水	
17	木	
18	金	
19	土	
20	日	ピチャリ第188号発行
21	月	
22	火	ジュニア探検クラブ
23	水	
24	木	
25	金	
26	土	
27	日	
28	月	
29	火	
30	水	
31	木	

※8月の休館日はありません

なにこれ？

写真はクワの木に付着したヒモワタカイガラムシです。散歩途中に見つけたと町民の方に教えてもらいました。



編集後記 ~tawagoto~

新聞記事の中で「サバンナ思考」という造語を知った。危機感×気づき×即行動と掛け算で示されたこの言葉に、普段の行動と重ね合わせ、しばし考えた。博物館では、古いものと新しいものが同居していて、維持・管理はもちろん必要な業務だが、年数回の展示で、新しいものを生み出すには、現状維持だけでは回らない。情報の収集や知恵を絞り、形にしていこう。そうして得た来館者の気づきの表情は、何よりのご褒美だ。

Pichari ~ピチャリ~

第187号

令和5年7月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp